

# 和歌山大 瀧学長に聞く 紀南に入学特別枠も

## 「厳しく競える大学に」

和歌山大学(和歌山市栄谷)の学長に今春、システム工学部教授から初めて、瀧寛和氏(59)が就任した。国立大学制度改革の議論が進み、地方大学の運営が大きく変わろうとしている中、県内唯一の国立大としてどう機能を強化し、使命を果たしていくのか聞いた。(聞き手・桑原弘次)

「システム工学部初の学長との融合については、より総合的にして、まず抱負を聞かせてくだ学べるよう、本年度から再編しました。」

研究面で学外と厳しく競い合える体制をさらに強化したい。国立大としては唯一、学部から博士まで観光学の課程を設けていて、来年4月には世界水準の観光学研究機関「国際観光学センター(仮称)」を開設する予定。設立20年を迎えたシステム工学部は、さまざまな科学技術

ト大学教育学部と交流して教育



和歌山大学の学長に就任し、抱負を語る瀧寛和氏

研究を深めるなど、各学部で機能強化を目指しています。

国立大学改革の議論が進んでいます。

国から大学へ配分される「運営費交付金」は毎年削られ、和

大もぎりぎりの状態。さらに文

部科学者は、改革の取り組み状

況への評価で交付金の配分額に

差をつける仕組みの導入を議論

しています。和大としては先述

の機能強化を進め、特色を出し

ながら「地域貢献」で勝負して

いきます。

具体的にとつ地域に貢献し

ていきますか。

き出し、その手助けをします。素直で優秀だが、自分を過小評価する学生が多い。和大で勉強に励んだことを誇りに思い、卒業後は自信を持って社会で活躍してもらえるようにしたい。

若者の県外流出が、地域の疲弊につながっているといわれます。

県内から和大への入学者は全体の3割程度で、その多くが卒業後、県内で就職しています。県内出身の学生が多ければ、その分、地元に残る若者も増えるでしょう。しかし、実は紀南からの入学者はそれほど多くない。和大でも通うには遠く、下宿が必要なため、どうせならと大阪や京都、東京に進学する学生が多いからです。

紀南から学生を取り込む方策はありますか。

入学者枠に紀南からの特別枠を設けたいと考え、文部科学省に申請しています。最初は教育学部が来年度の推薦入試で導入します。その後他学部にも広げたいと思います。田辺市にある和南紀熊野サテライトでの「オープンキャンパス」開催も検討しています。紀南の高校生に和大的魅力を伝えたい。



たき・ひろかず「大阪府茨木市在住。大阪大学大学院基礎工学研究科修了。三菱電機情報電子研究所、同設計システム技術センターなどを経て、1998年に和歌山大システム工学部教授。学部長、副学長を歴任。専攻は知識情報処理、人工知能など。」